

こんなときにこんな言葉

出雲市立大津小学校
令和3年3月現在

	算数	道徳
<p>視点1</p> <p>○子どもが問いをもつ発問について</p>	<p>○既習、生活経験、友達とのずれを尋ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「あれ」とつぶやいた際、理由を尋ね、学級全体の問いに広げる。 「あれっと思ったのはどうして。」 	<p>○自我関与を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの活用：実態を客観視 「どんなことに気づきましたか？」 ・わかっている理想とそうでない実態のズレに気づかせる 「わかってはいるけど、できない。どうしてだろうね？」 ・当たり前の中にある価値理解 「〇〇は、どうして大切なの？」
<p>視点2</p> <p>○子どもが、問いをもち、論理的、統合的、発展的に追究し続けるための発問について（算数）</p> <p>○子どもが問いをもち、本音で語り、多面的、多角的に追究し続けるための発問について。（道徳）</p>	<p>○追究するための問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを引き出すためのゆさぶり 「もう他にはないでしょう。」 ・考えを明確にするためのゆさぶり 「逆にどうなったらいいの。」 「じゃあ、〇〇でいいね。」 「本当に。」 ・論理的に追究するための問い返し 「どうしてそう思ったの。」 ・立場を明らかにするための発問 「どっちかな。」 ・方法を明らかにするための発問 「どうやってこの考えを見つけたの。」 ・有用性を理解するための発問 「この考えの何が良いの。」 ・帰納的に追究するための発問 「例えば〇〇だったらどうかな。」 <p>○めあてに立ち返る指示</p> <p>「もう〇〇はできたかな。」</p>	<p>○心情理解レベルから道徳的価値レベルに深める際の問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本質に深めていくための問い返し、ゆさぶり 「本当に？みんなもそう思う？」 「どうしてそう考えたの？」 ・多角的な視点を持たせる発問と多面的に考える発問の使い分け 「〇〇の立場だと、どうだろう？」 「他の理由はないだろうか？」
<p>その他</p>	<p>○問題設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの知識、経験や既習事項とのずれから、ねらいにせまる。 <p>○短く明確な指示</p> <p>○カードの活用（手立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の考えを黒板に掲示することで考えを共有する。多面的な見方につながる。 	

児童が問いをもっているとき、教師の発問は少なくなる。